

All for one, one for all

第30回オリンピック競技大会は8月12日ロンドンで閉会式が行われ、17日間にわたった競技がすべて終わりました。日本代表選手たちは史上最多38個のメダルを獲得しました。日本全国で盛り上がり、ています。8月20日、東京銀座で凱旋パレードが行われ、50万人の観衆が押し寄せました。集まった多くの観衆は30度以上の暑さに耐えて、ただ「ありがとう」という言葉だけ言いたかったのです。外国人である私も心から感動しました。今回の日本選手では、サッカー男子、女子、卓球、体操、バレーボールなど団体戦として、強い印象がありました。男子体操の内村さんが個人の金メダルより、団体の金メダルがほしいと言いつづけていました。そして、水泳男子リレーの松田丈志選手はこういいました。「北島さんを手泊らで帰すわけにはいかない！」これは個人競技で失敗した平泳ぎの北島選手に対してリレー競技では絶対メダルを取ろう。

というチームメイトの決意の言葉だ、たそう
です。日本人はみんなこの言葉に感動したみ
たいです。他にも「チームのために」「この
メンバーと一緒に闘えるから頑張れる」そん
な言葉を口にする選手が多かったです。それ
ぞれ個人の力は大切ですが、チームを大切に
していくことによ、こ、団体戦のやる気が強
くなります。勝利するチームというのは、チ
ームメンバーが同じ方向に前進できるチームで
す。チームが連帯できていないと、必ずうま
くいきません。チームワークを向上するため
に、必要なのがコミュニケーションです。な
ぜかという、チームメイトが何を考えてい
るのか分かれば、連帯の向上、情報の共有が
でき、チーム力になるからです。

日本では毎年全国高校野球大会があります。
これを見るとチームの大切さがよく分かりま
す。野球において大事なことは「チーム内に
信頼関係があること」です。日本の高校野球
では送りバントという作戦がよく使われます。

これは他の国ではほとんど見られません。な
ぜなら、自分が犠牲になり、ランナーを助け
るという考え方は日本人が発明した戦い方で
欧米人には理解しにくいからです。この送り
バントという戦法こそ、チームを大切にする
日本人の考え方の代表だと思えます。また、
投手がピッチになり、すごく緊張して周りが
見えなくなると、守備の人が投手に声をか
かけ、励まします。それによつてピッチを切
りぬけるケースがよくありますが、これもチ
ームプレーのより例だと思えました。私は野
球のルールはよく分からなっていますが、送りバ
ントやピッチの時のチームメイトが励ます場
面を見て、チームのことを大事に思っている
日本人のチームワークに感心しました。
しかし、チームを大事にすることは、スポ
ーツだけに限りません。会社に入ればこうい
うチームの大切さが身をもってよく感じられる
と思います。ある商品を売り出すことにつ
いて、自分ひとりだけで考えぬおより、みんなから

の意見を聞くほうが素晴らしり成果が出せる
はずです。しかし、チームで計画を実行して
いく最初の段階からすべてうまくいくのは非
常に難しいです。チームメンバーがよくな
るまでには時間がかかります。メンバーたち
がお互いをよく知り、コミュニケーションし
徐々に良いチームが形成されていくわけです。
相手を信頼し、自分を信頼してもらうのは大
事です。チームのメンバー一人一人が互いに
認め合い、分かち合い、思いやりで接してい
くことが大切です。このことは、私が会社に
就職し、チームの一員として働く時、私にと
て大きな課題になると思います。自分のため
ではなく、チームのために何をすべきかを考
えて行動することは難しいことですから、今
からそういう習慣を身につけるための努力が
必要だと思います。

今回はスポーツを通じて日本人のチームワ
ークや他人に対しての思いやりがチームとして
の強さにつながり、ていることが理解できまし

た。私にと、ても考え方のヒントになること
が大きいと感じました。